

平成20年度研究計画

研究テーマ「楽しくわかる授業の工夫」

～子どもの発言を生かして～

1 テーマ設定の理由

(1) 教育目標・教育課題から

当校の教育目標は、「たくましく かしこく 美しい心」である。その背景には、自ら学ぶ意欲、判断力、思考力、表現力、そして、他を思いやる心、たくましく生きる健康・体力を高めることにより、激変する社会に対応する「生きる力」を育みたいという願いがこめられている。

この教育目標のもと「知育面の教育課題」として、「基礎・基本の定着と課題追究力の育成」が挙げられる。本年度の研究主題は、この課題を受けて設定したものである。

(2) 児童の実態から

ア 児童アンケートの結果から

- ・学年が進むにつれて、授業を楽しんでいる児童が減少している。
- ・主要教科でとても楽しいと感じる児童が少ない。

これは、普段の授業への魅力の低下し、授業への児童自身の参加意識が低いことが要因と考えられる。児童の参加意識を高めるためには、自分の考えを持って、友達とともに学習することが大切である。しかし、自分の考えを発言しようとする児童には偏りがみられ、みんなの考えで学習が進められている状況にはない。

イ 学力調査の結果から

- ・昨年度の「定着状況調査」では、県平均を下回る領域が多い。
- ・NRTにおいても、全国平均を下回る領域が多い。

これらことから児童の参加意欲を高め、学習したことが身に付いたと児童が実感できる授業を展開する必要がある。

2 主題について

(1) 楽しくわかる授業とは

児童の参加意欲を高め、主体的に学習することである。そのために「つかむ」「ふかめる」「まとめる」という学習過程を児童自身が意識することが大切である。

その中で、

- ①児童が自分の考えをしっかりともち
- ②児童が安心して自分の考えや意見を相互交流することを通して、
- 学習したことが身に付いたと実感できる

授業である。

(2) 児童の発言を生かすとは

5 学力を支える基礎の定着のために

(1) 全校漢字・計算テストを実施する。

※実施詳細は、国語・算数各部より提案

(2) 音読の宿題

国語力の向上のためには、毎日読むことが大切である。声に出すことは理解を高めることにつながる。音読に取り組ませる。

音読を毎日の宿題として、学年または学年部カードを作成し取り組む。

(3) 読書の奨励

①朝読書の実施

②図書館の利用促進

③市の図書館との連携

※詳細は、図書館部から提案

(4) NRTの分析

NRTの分析を行い、学年の課題、個人の課題を設定し、授業構想に活用する。

6 学力を支える基礎の定着のために

(1) 学習参観時に保護者アンケートを実施する。

アンケートを集約し、授業改善に活用する。

(2) 公開授業に保護者に案内を配付する。

学力向上委員会

1 本年度の実践の概要

昨年度「楽しくわかる授業の工夫」を研究テーマに授業改善を行った。しかし、「授業を楽しい」と感じる子どもたちが少ないという実態があった。それは、児童が自分の考えを発言することなく、授業に主体的に参加できていないことが原因と考えた。

そこで、本年度は副題を「子どもの発言を生かして」と設定し、児童の発言を生かして授業をすることで、授業を楽しく感じ、主体的に参加するようになるのではないかと考えた。「発言を生かしている姿」を「かかわる姿」と捉え、場によってどのようなかかわりの姿が見られるのかを探るために公開授業を行った。

【公開学年と場】

- ・ 1・2・4年生…ペアでかかわる場
- ・ 3・5年生 …グループでかかわる場
- ・ 6年生 …個々にかかわる場

2 成果

(1) かかわりの場とかかわる姿

①ペア …児童は相手を見て、相手に聞こえる声で話すことができた。

②グループ…友達の考えに疑問を投げかけ、その疑問に答えられないでいると他の児童が友達の考えをくみ取り説明し、友達同士でその場で生まれた問題を解決することができた。

③個々…自分が分からないことを友達に聞いたり、同じ考えであることを確認したりと自分の目的に合った交流があった。

(4) 場を成立させるための有効であった手立て

①話形ワークシート …話すスキルを身に付けさせるために有効。

②なっとくシール …友達の話を聞く意識を高めることに有効。

③ワークシートの活用 …ワークシートを見せながら説明をし、追体験をさせることは児童の理解を確かなものにするに有効。

④解決できそうでできない課題…友達の考えを参考にしようとするに有効。

⑤グループでの役割分担…課題解決のための話し合いに自ら参加させるに有効。

3 課題

(1) 友達の考えを聞いているだけで、流されてしまう。

(2) 疑問に思っても言えない。

(3) 友達と違う考えになると不安になる。

(4) 相手の理解を踏まえないで話を進めてしまう。

(5) 話して安心する。

4 来年度に向けて

場を設定することで、児童は自分の考えを友達に話すことはできた。しかし、話して終わり、聞いて終わりという課題も見えてきた。深まりのあるかかわりをもたせるためには、確かな理解の基に自分の考えを持つことが重要ではないかと考える。そこで、確かな理解をもとにかかわり合う姿を目指し授業改善に取り組みたい。